

公益財団法人日本食品化学研究振興財団
令和 7 年度助成決定について

公益財団法人日本食品化学研究振興財団（理事長 清水 康弘）は、次のとおり令和 7 年度助成金交付対象者（所属・職名は申請時）を決定しましたのでお知らせいたします。

研究助成採択件数および金額

一般研究	8 件	計	750 万円
課題研究	9 件	計	750 万円
合 計	17 件		1,500 万円

前期シンポジウム開催等助成件数および金額

2 件	計	73.8 万円
-----	---	---------

後期シンポジウム開催等助成件数および金額

3 件	計	85 万円
-----	---	-------

○一般研究

1. 中毒事例における高リスク TTXs プロファイリング及び理化学分析のための標準試料作製検討
（長崎県環境保健研究センター 保健衛生研究部 科長（参事） 辻村 和也）
2. 食品添加物の品質評価における高分子量縮合型タンニン標準品調製に関する基礎検討
（松山大学 薬学部 教授 天倉 吉章）
3. 自動前処理装置を用いた食品中ピロリジジナルカロイド類の高感度分析法の開発
（国立医薬品食品衛生研究所 食品部 第三室長 志田 静夏）
4. 適切な健康影響評価系の構築を目指した、経口曝露後の銀ナノ粒子の存在様式変化を踏まえた体内動態解析
（和歌山県立医科大学 薬学部 教授 長野 一也）

5. 逆相 HPLC-蛍光分析を可能とする高選択的誘導体化を利用した食品添加物中のアクリルアミド定量法
(国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 研究員 川末 慎葉)
6. 乾燥による乳酸菌の活性劣化を抑制する製剤調整手法の検討
(宇部工業高等専門学校 物質工学科 特命助教 竹田 昂司)
7. 食品添加物二炭酸ジメチルから生じるカルバミン酸メチルのラット肝発がん機序に関する研究
(国立医薬品食品衛生研究所 病理部 室長 石井 雄二)
8. NMR を用いたムラサキニンジン由来アントシアニンのデジタル化と定量分析
(東洋大学 食環境科学部 准教授 西崎 雄三)

○課題研究

1. ポリリン酸の分解に関わる酵素の同定と亜鉛栄養状態との関連性
(京都大学大学院 生命科学研究科 准教授 神戸 大朋)
2. 哺乳動物体内におけるカロテノイド異性化反応の探求
(京都大学大学院 農学研究科 助教 真鍋 祐樹)
3. バニラ (*Vanilla planifolia*) 抽出物の骨粗鬆症予防効果とその作用機構の解明
(近畿大学 農学部 講師 田中 照佳)
4. ヒアルロン酸オリゴ糖の同時定量法による体内動態特性の解析と腸管免疫系への関与
(北海道大学大学院 薬学研究院 講師 佐藤 夕紀)
5. スギ由来香気成分ノルリグナンの生合成解析を基盤とした類縁体創出と物性評価
(東京大学大学院 薬学系研究科 助教 牛丸 理一郎)
6. 月経周期や閉経に伴う甘味感受性および嗜好性の変化がもたらす摂食への影響
ースクロースとは異なるスクラロースの摂食調節作用の検討ー
(京都光華女子大学 健康科学部 講師 中木 直子)

7. 食感ビッグデータを活用した大規模言語モデルによる食感と言語の相互変換法開発

(東京電機大学 理工学部 教授 武政 誠)

8. 代替タンパク質中のアレルゲン網羅的定量法の開発

(星薬科大学 薬品分析化学研究室 准教授 伊藤 里恵)

9. 食用コオロギは本当に「健康的」か

～コオロギ摂食マウスにおける性特異的な体重増加の機序解明

(早稲田大学 理工学術院 准教授 野崎 千尋)

○ (前期) シンポジウム開催等助成

1. 令和7年度 日本食品衛生学会 公開シンポジウム

テーマ ; 「機能性表示食品の安全性とリスク」

2. 日本食品化学学会

第31回総会・学術大会

○ (後期) シンポジウム開催等助成

1. 第30回日本フードファクター学会学術集会

2. 第41回食品化学シンポジウム

「食物アレルギーと機能性表示食品を巡る課題と動向」

3. 18th International Hydrocolloids Conference